

令和6年度 第3回 タウンミーティング（概要）

○開催日時 令和7年3月25日(火)午後1時～2時

○開催会場 市役所 第2会議室

○開会あいさつ

市長 皆さん、こんにちは。ようこそ、江南市役所にお越しいただきましてありがとうございます。できるだけ多くの市民の皆さま方からいろんなご意見を聞いて、できることできないこともありますけれども、たくさんの方にご意見を聞きながら行政に反映していこうということで行っております。これまで、学生さんであったり、町内会であったり、いろんな団体の方々であったり、様々な形で年に3回ほど、こういった形で意見をお聞きしています。限られた時間ではありますが、よろしくお願いします。

○出席者と市長の意見交換

市長 気楽に自由に、好きなことをしゃべっていただければ結構ですので、市長だからといってそんな構えることはなくて、できることはできるよ、できないことはちょっと無理だね、とはっきり言うかもしれませんが、お願いしたいと思います。どうぞ、座ったままで結構です。

スタッフ① 今日はお招きいただきましてありがとうございます。一人ずつ自己紹介をしながら、市長さんにはイベントでお伺いしたことはあるんですが、お話ししたことはない者ばかりですので、自己紹介をしながらお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長 はい、よろしくお願いします。

参加者① こんにちは。モンゴル出身です。日本に来て14年になって、江南市は10年になります。よろしくお願いします。

参加者② 私はミャンマーの出身です。日本に来てもう8年以上になりますので、よろしくお願いします。

スタッフ② いつもふくらの家をご支援いただいてありがとうございます。ふくらでスタッフをやっております。よろしくお願いします。

参加者③ 私、ブラジルから来ました。20年になります。江南市住んでいます。

スタッフ③ ペルー出身です。日本に来てからもう 32 年になりました。ふくらの家ではスタッフの一員として働かせていただいています。

参加者④ ブラジルから、で、日本 35 年、江南市 6 年。

参加者⑤ ベトナムから来ました。日本に来てもうすぐ 9 年になります。日本来たら、ずっと江南で住んでます。よろしくお願いします。

スタッフ④ 一宮市から来ました。ふくらの家では 9 年くらいスタッフとして携わっています。よろしくお願いします。

市長 では、いろんなこと、自由にしゃべってもらえれば結構ですけども、少しだけヒントとして、例えば、日本の文化や習慣の中でこれ興味深いね、いいことだね、これちょっと変だね、みたいなことがあったら教えていただきたいというのが一つ。二つ目に、今、江南市で生活していく上で何か困っているようなことがあったらおっしゃってください。それから、子どもたちが日本で学ぶ上で、日本の教育、こういうことがあるといいよね、というようなものがあったら教えてください。それから、もう一方で、皆さん方、もしお仕事をされているならば、日本の風習や仕事の上でちょっと変わってるなとか、それから、皆さん方が住んでいる地域の中で治安だとか安全面だとか、ちょっと不安だなと思うようなことがあったら教えてください。それから、江南市の行政、市役所のお仕事の中で、こういうことおかしいんじゃない、こういうことあるといいんじゃない、というようなことがあったら教えてください。あとは、病気とかケガした時、病院の体制について何か考えられていることがあったら教えてください。それから、国によって、お祭りを盛んにやっていたりするところあると思うんですけど、こういうお祭りがあるとおもしろいねとか、自分たちでも何か企画できるいいな、なんてことがあったら教えてください。今ちょっとたくさんのこと言いましたけども、自由に、どんなことでもいいので、特に江南市に対して何かご意見があれば教えていただいて、外国人の方々にとってこういうことがちょっと不便だね、とかそういうお困りのことについて、できるだけ改善をしていかなければいけないと思っています。なかなか言葉の面も難しいですけども、今日は、9 人みえるので一人一問くらいしかできないかもしれませんが、順番でいきましょうか。

参加者① 私は日本に来て、最初は名古屋市で暮らしたんですけど、次の年に子ども産んで、子どもと自分との時間が、モンゴルだったら、子どもはみんな家族で育つんですけど、こっちだったら、自分と子どもしかなくて、どこに行っても何があるか分からなくて、いつもお店連れて行くけど、子育てセンターとかどこにあるかそんな情報どこにもなくて、もう一つ、自分も言葉が分からなかった。すごく不安があったと思います。とにかく言葉を覚えるのが一番だなと思って、毎日 CD 聞きながら自分で勉強した。やっぱり、家にずっといるとストレスは子育て中にすごくあって、江南市に旦那の仕事のあてもあって引っ越して来たんですけど、市役所から、ふくらの家があることを知って、旦那が行こうと言っ

て、私は付いて行ったら、すごく明るくて、おいでおいでと先生たちが言って、なんか実家に帰ってるような感覚だったんですけど、今も自分もふくらにいて日本語も勉強して、また逆に、図書館とか学校とかに自分の国の文化を教えるチャンスをいただいて、普通に働いていくんじゃないくて、自分のできるものもこの国にあげたい、子どもたちに自分の国を紹介したいなという思いも、ふくらを通してやってることに嬉しく思っています。旦那は一宮出身なんですけど、名古屋から一宮に引っ越ししようか、それか江南に引っ越ししようか悩んだ時に、江南にふくらあるから、あなたの実家みたいにあるからその方がいいよ、と言って江南に暮らし始めたんですけど、いつ行ってもやさしい日本語で話してくれて、困ったことの相談のってくれたり、友達が日本あちこちにいるんですけど、江南いいなとみんな言うんですね。なんでかというと、自分たちが気楽に行く場所がないから。名古屋にも友達いるんですけど、名古屋は大きすぎて人間と人間との関わりがあいまいで羨ましい、すごく言うんですね。自分がすごいからじゃなくて、ふくらのおかげで学校行って子どもたちとしゃべったりとか紙芝居を教えたりとかできているのは、ふくらがあることのおかげだと思っています。皆さん、ほんといつもありがとうございます。

市長 嬉しいですね。

スタッフ① モンゴルの紙芝居も作っていただいたんですよ。モンゴル語と日本語を入れて、あちこち持って歩いていただいている。

市長 子どもたちと交流して、自分たちの国のことを知らせたいという思いもあって、学校などに行って話をする機会はあるんですか。

スタッフ① 時々呼んでいただいています。

市長 お国柄を表す紙芝居よく見せていただくんですが、なかなか絵の描き方だとか国によって全然違うのでおもしろいと思います。ありがとうございます。非常にふくらの家が気に入っていただいたこと、さみしい中で交流が持てたのはふくらのおかげだということでもありますけど、スタッフの皆さん本当にありがとうございます。

参加者② こんにちは。ミャンマー語ではミンガラバ。私はミャンマーから日本に来て、やっぱりミャンマーと日本の文化が大きく違うのはたくさんありまして、日本にいるから、日本の文化を守らなければいけないなと思いだして、その中でも、日本の文化とミャンマーの文化の、私がびっくりしたことがあって、それはお風呂入る時です。日本でお風呂入る時、男性用、女性用、あるじゃないですか。男性だったら、みんな男性用お風呂入ってて、ミャンマーではそういうことないです。すごくミャンマー人にとっては恥ずかしくて入れない。私ももう1回入りたいですかと聞かれたら、嫌だという感じで、それがちょっと大きく違うなということ。あとは、特段気になることなく、日本の文化はすごいなと思っていて、不安なことは、体が痛くて病院行ったのに、2時間、3時間待ってないとけない。それは何とかして欲しいなというも思うけど、もし私ならどう

するかなと。あとたまにあるけど、夜、10時半から11時の間、車がたまに赤信号なのに行っちゃう、信号無視だからびっくりした。危ないなという感じで。あとは、江南市に住んだのは、私は静かなのが好きだから、江南市は私にとって特に問題なくて、最初日本に来た時、日本語全然分からなくてすごく困ってる時、日本語勉強したいなと思って、日本語の学校をネットで調べてみたら、専門的な学校は、お金を払って勉強する、それはなかなか時間が決められなくて、すごく困ってて、勉強したいのにどうしたらいいという感じ。そのうちにふくらの家を見つけて、すごく助かりました。ふくらの家は日本語の学校というより、日本語だけじゃなくて、生活に困っているもの全て聞きます。何故これこうなってますか、どうしたらいいですか、とかいろいろ聞きます。日本語だけじゃなくて、私にとって生活にとっても大事。だからできたら、ふくらの家をここより大きくして欲しいです。日本語ができてからこそ、仕事でもスピードも上がるし、すごく便利だなと思いました。ふくらの家は本当にありがたいです。ありがとうございます。

市長 日本語を勉強するのは本当に大変で、時間もないし、ふくらの家で遊びながら、皆さんと接しながらいろんな言葉を覚えたり、習慣も覚えたりという意味で、非常にふくらの家ありがたい存在であるということで、日本語を集中して勉強したい、もっと上手になれば仕事の面でも役に立てるということをきっと思うんですね。困ったことはどんどんスタッフの皆さんに言いながら、直接市役所に来ていただいてもいいですけど、難しい時には、ベテランの方もおみえになりますから、話してあげてください。

参加者③ 私、江南市大好き。ずっと20年住んでいます。すごく大好きです。前、日本来た、新しい文化、ブラジルのイメージ、旦那さんのイメージ、私のイメージは日本いいね、ブラジルの仕事と違う。車、勉強、本屋さん、ブラジルと違う。来ました、旦那さんと私。部品、車の部品の仕事、はじまり、1年。私旦那さんと二人ね、妊娠した。私ブラジル帰りました。2年半ブラジル、その後で、上の子、下の子、3人で来ました。でも大変、私日本語話さない、仕事働けない。子ども学校入る、全然分からない。でも旦那さん1日仕事、私家に一人、全部違う、料理違う、アパート違う。ずっとブラジルは家族一緒に、日本は一人、難しいここが、生活違う。でもゆっくりゆっくり、お友達がふくらの家、外国人手伝う、お願い来て来て。上の子、入りました、小学校。ふくらの家、はじまり、お手伝い、ずっと今まで。すぐ私病気、つよい病気、少し働きました。でもストップ、病気だから働けない。ふくらの家、来て来て、手伝う、子ども一緒にね、保育園一緒に、私、ふくら先生たち手伝う。学校、病院、すごい一緒にね、これは一番ふくらね、病院の先生言葉、少しだけ、仕事長い時間できない。ふくらの家、みんな来て来てね、手伝う、日本は好き。

市長 言葉の問題が一番やはり皆さんにとって大切で、病気一つできないというか、そういった時にスタッフの人たちが付いて行ったりとか、お医者さんも外国の言葉をしゃべる人は少ないので、困ったことはまず身近な人たちに遠慮なく相談していただいて、時間があれば付いて行ってもらったり、任せればいいのかと思います。ありがとうございました。本当にご苦労があったと思います。

参加者③ でも嬉しい、一番嬉しいふくらの家、みんなすごく嬉しい。家族みたい。
ブラジル帰らない、私の今、家族ふくらの家、みんなすごく嬉しい。

市長 嬉しいね。ふくらの家がこう思ってもらって。

参加者④ ○○○…。(ポルトガル語)

市長 ちょっと分からないので通訳していただいて。

スタッフ③ 何年も前日本に来た時、携帯電話がなかった。今はとても便利、どこにいても、レストランにいても携帯電話出して、翻訳アプリとかいろんなことを使えるようになったので、昔は携帯電話がなかったから、レストランに行ってもメニューが読めなくて、どんなふうに注文したらいいか困ってました。

市長 漫画でドラえもん、ほんやくコンニャクありますよね。コンニャクを食べると言葉がわかるという。あういう世界がいずれ来るなと思ったら、本当に今そういう携帯で出来る世の中になっているね。

スタッフ③ 日本はとても素晴らしい国で、今はだいぶ生活は慣れました。ブラジルと違って、今、日本では、運転はしないので、自転車で通勤とかお買い物に行ったりしている。夜の道、道路照明がなかなかなくて暗い場所が多い、危ないんじゃないかなと思ったりはしてます。

市長 暗いところ、まだあるかもしれないね。学生たちに話を聞いてみても、自分たちが通学する時に江南駅で降りて、例えば高校へ行く道で暗い所があると聞いたことがあります。ここにあるといいなということがあれば、やっぱり区長さんを通して、ここに街路灯欲しいなとおっしゃってみてはいかがでしょうか。何でも言葉にして、言葉が通じる方たちと、区長さんやスタッフの皆さんたちと相談されるといいなと思います。

参加者⑤ ベトナムの日本の会社で働いてきました。日本の文化、要領いろいろ知りました。日本人たちは仕事すごく熱心、よく頑張ります。残業多い、ベトナムのお母さんに比べたら日本の会社仕事ちょっと多いね。忙しい仕事だからたくさん仕事あります。日本来て、仕事大変思った。前は、私の会社、日本人たち、ベトナムで働いています。みんなは3～4年たつと帰らないといけない。終わったら日本帰りたくない、戻りたくないと言う。ベトナムは仕事楽だし、給料も高いし帰りたくない言うけど、戻らないといけない。新しい人と代わります。

市長 そうですか、国には帰りたい気持ちはどこかありますよね？

参加者⑤ 時々はあります。日本に来たら、ほんとに良かったのはふくら。1年間日本語を勉強しました。教えていただきました。本当にありがとうございました。後で、子ども産まれた。子ども3歳から保育園に預けます。子ども保育園入る前

に、0～1歳までどこで遊んでいいか迷ってます。自分できないし、どこで遊んでいいか全然わからないし、さみしいです。それから、毎週火曜日、外国人のお母さんたちと一緒に遊んで、ほんとに良かったです。家で一人さみしいし、いろいろ困っても分からないし、ふくらでいろいろさみしいこと、悩むこと、先生たちに相談とか、みんな友達、ベトナム人もいるし、外国人もいるし、いろいろ話しました。心温かったです。

市長 ありがとうございます。

参加者① 子育て支援センターとかいろいろあるけど、ママ友としゃべってる中に外国人の人が入るのはすごく勇気が必要。私たちはそっちに行くのは言葉できないし、ついていけないし、ふくらの家で外国人の人たちが子ども連れて来てみんなで遊ぼうというサークルを作ったことは、本当に私たちすごく助かりました。

スタッフ④ ずっと毎日ふくらに通っていて、出産して子どもできて、すごく困ってたんですね。どこにどうしたらいいのか、さみしい。こんな場所あったら良いなとぽろっと言ってくださった一言で、じゃあ子育てサロンやってみようかと、相談して思い付きで始めた。とにかく子育てサロンなので、日本人のお母さんたちが来てくれるのが大きなポイントで、やっぱり外国人だけだと意味がないんですよね。その中に日本人が入ってくれて、日本語の体験ができるということで、日本人も来て来てと、いろいろ声をかけてたんですけど、なかなか情報が行き渡ってなくて。この機会に周知してもらって、みんな集まるといいなという思いもあります。やっぱり外国のお母さんたちは、日本人のお母さんたちとコミュニケーションするのはとても勇気がいる。

参加者① ママ友の間に入るのは、邪魔になっちゃうかなと思ってしまう。

スタッフ④ 言葉の壁もありますし、そういう場所があって、日本人のお母さんたちも来てくれて、長く関わってくれているお母さんたちもいるので、保育園を卒園すると、お布団あるよとか、子ども服あるよとか持って来てくださって、つながりが今でも続いている。

市長 共感できますよね。

スタッフ④ はい、同じ保育園で顔合わせておしゃべりしてくださったり、保育園、小学校の情報は中にいる人からしか、なかなか私たちからは提供できないものも多いので、やっぱり身近にそういう友達というか、たくさんできるといいなと思います。

市長 国際交流協会として、ふくらの家として、もう何年も経つんだけど。

スタッフ④ 外国人はたくさん来るんですけど、日本人はあんまり。

市長 この赤い服（江南市国際交流協会のTシャツ）はいつも見てるんだけど。

スタッフ④ 全然周知はされてないです、肌感としては。

スタッフ② 小学校とかに行っても、私、ふじっ子の方でもアドバイザーの仕事してるんですけど、そこで働いてる安全管理員の先生方も、ふくらの家って名前は知ってるんですけど、何やってるの？という方が意外と多くて、あんまり周知されてないんだと思って。あと、こども土曜塾の方でも関わってるんですけど、子どもたちはふくらの家をすごく好きなんです、第二の家みたいになってくれているのが、すごく嬉しいんです。こども土曜塾の目的は学習支援もあるんですけど、子どもたちの居場所的なものが一番の魅力だと思うんです。よく子どもたちが口にするのは、学校にいと本当の自分が出せない、ふくらに来ると本当の自分を出せてすごく開放的で、すごく楽しいと言ってくれる。それを聞くと、学校の中に、もし、ふくらみたいな所があると、学校でも心が落ち着く場所もあり、学校終わったらふくらに来るとか、支援学級の先生はいらっしゃるじゃないですか。外国の子どもの支援とか、心のケアをしてくれる方も増えていくといいなと、子どもの話を聞いて、思ったりします。

スタッフ④ 日本語の子どもの初期指導がほとんどないので、小学校の中にも、来日したばかりの子どもがどこで日本語を学べばいいの？という、結局ふくらだけになってしまう。

スタッフ① 今、外国から日本に来た時に、教育委員会からふくらの家で学校行くまでの2、3カ月、日本語や文化、勉強してから学校行きましょうね、ということで、長い子で3カ月お預かりして、学校に送り出すんです。そこまでは何とかやれるんですけど、学校に入ってからがちょっと大変かなと思うんです。なるべく帰りにふくらにおいでよと言うんですけど、中学生なんかはなかなか来れなくて。夜遅い時間には来てますけども、ちょっと橋渡しをするところで。

スタッフ② 中間の橋渡し役みたいな方がいらっしゃると、お互いに情報を共有できるのでいいんじゃないかと。

スタッフ④ 学校がすぐ受け入れ可能な体制にいつでもなっているとすごく助かって、やっぱり1日の中でお母さんは仕事行っちゃう、子どもだけ一人、ふくらに1時間だけ来る、そうするとその前後の時間はすごくもったいない。家に子どもが一人にいる、だったら学校で、子どもたちにもまれてなんとか生活できていくというような方法はないのかなと。

市長 江南市の場合、小学校が10校あるけれども、それぞれに今ひよっとしたら外国の児童がいたりする。藤里小学校のように外国の児童が多いところはそういった先生も配置しやすいかもしれませんが。

スタッフ④ これから作っていかないといけないですね。

市長 それが今はふくらということで、限られた時間にはなってしまうけど。今度、新しく多世代交流プラザが、ウイステリアプラザということで、そちらに国際交流協会もいきますよね。一つのいいチャンスなので、行政としてもしっかりとPRしながら、言葉が通じないからどこに何があるかも分からない人もひよっとしたらいっぱいいると思うし、PRの大切さは今日、よく分かりました。

スタッフ③ 今、私は市民サービス課でポルトガル語とスペイン語の通訳として勤めているんですけど、外国人の方が転入の手続きをされる時にできるだけ私のご案内しているんですけど、どうしても私のところに回ってこない方も多くて、ご案内できない時があったり、ベトナム語、中国語とかの対応は時々困ったりしていて、翻訳アプリで対応させていただいているんですけど、残念ながら皆さんにはふくらのご案内ができていなくて。

スタッフ④ 役所に通訳がもっといるといいですね。ベトナム語の通訳とか中国語の通訳とか。

スタッフ① この抜けているあたりの通訳さんがいるといいなと思います。今度新しい多世代交流プラザでお世話になります。嬉しいんです。ありがとうございます。

市長 そうだね。今度は高齢者と日本人の子どもたちが、児童館の役割をする人たちと一緒に。

スタッフ① お蔭様で、子どもたちも成長しまして、今年も高校入試も全員通りまして、みんなそれぞれ巣立っていきます。本日はありがとうございます。

市長 なかなか市民の皆さん方と触れ合う機会はそんなにたくさんあるわけじゃないんで、空いた時に、また赤いTシャツを見せていただきながら、賑やかにお国柄を出していただいて、お世話になりますけど、よろしく願いいたします。

スタッフ① こうして親しくお話できたので、またみんなも市長さんにお会いできるとお話ができると思います。ありがとうございました。